

肉牛農家の皆様へ

生産性向上による経営体質の強化を図るために

～飼養管理チェック表とポイント～

はじめに

配合飼料価格の高騰等により生産費が増加している今日、生産技術の向上により低コスト化を図ることが重要です。生産者の皆さんがこれまで取り組んでこられた生産性向上対策について、もう一度内容を確認し、より一層の改善に努めましょう！

生産指標

生産性向上を図るための指標として、次のものがあげられますので、自己の経営を把握しながら十分な飼養管理を行い、生産効率の向上による経営の安定化を図りましょう。

経営	主な生産指標	全体	所得下位 20%	所得中位 60%	所得上位 20%	目標	
繁殖	分娩間隔（月）	12.7	13.1	12.6	12.8	13.9	
	種付回数（回）	1.5	1.6	1.5	1.4	1.5	
殖	子牛日増体量 （kg）	去	1.05	1.04	1.04	1.07	1.0以上
		雌	0.94	0.97	0.92	1.00	0.9以上
	子牛出荷体重 （kg）	去	279	279	278	284	310以上
		雌	263	272	260	265	280以上
子牛事故率（%）					5未満		
肥育	肥育牛増体重 （kg/日）	0.72	0.63	0.73	0.72	0.85以上	
	肥育牛出荷体重 （kg）	743	726	739	767	760	
	肥育牛事故率 （%）	2.0	1.0	2.3	1.5	3未満	

先進経営調査（中央畜産会調べ）、目標は栃木県家畜改良増殖計画・酪農肉用牛近代化計画

生産性向上のポイント

生産性の向上は、多くの要因について総合的に対応することが必要です。もう一度以下のポイントについて見直しなどを行い、より効率的な生産を目指しましょう。

繁殖技術対策	①分娩間隔の短縮 ②適切な飼養管理による子牛の事故防止・出荷成績向上
肥育技術対策	①適切な飼養管理による肥育期間中の事故防止 ②肥育成績の向上および適期出荷

(1) 繁殖経営		
ア 分娩間隔の短縮 1年1産を目標に分娩間隔の短縮を図ることで、生産性が向上します。また、1回不受胎になると少なくとも人工授精経費約1万3千円と飼料代約1万円の損失となりますので、種付回数1.5以下を目標に受胎率向上を目指しましょう。 そのためにはCheck!	評価	備考
分娩前後の雌牛に対する適切な飼料給与を行っていますか （やせすぎ・太りすぎは受胎率を低下させるので、雌牛を適切な栄養度に保ち、受胎率向上による生産性向上を図りましょう。）		
適切な時期に子牛を離乳し、発情回帰の促進を図っていますか		
繁殖牛の発情発見に努め、適期授精による受胎率向上を図っていますか		
妊娠鑑定を実施していますか （早ければ授精後40日で鑑定できます）		
発情のない牛を早期に治療していますか		
イ 超早期分離ほ育の取り組み 超早期離乳技術を確立して、子牛の疾病予防・早期治療の徹底による発育良好で、群飼育に適合した飼料利用性の高い素牛を生産している経営があります。 そのためにはCheck!	評価	備考
超早期分離ほ育の取り組みを行っていますか※ （分娩後7日で子牛を母牛から離すことにより、子宮の修復や発情回帰を早めることが出来ます。） ※注意：人工ほ育用の購入飼料費や労働力の負担が増えるので、採算性や技術力を考慮して実施しましょう。		
ウ 子牛の事故防止 哺育・育成期の重要疾病は下痢と肺炎です。どちらも死亡率が高く、回復しても発育遅延を引き起こし、経済的被害が甚大ですので、予防対策の徹底が非常に重要です。 そのためにはCheck!	評価	備考
初乳を確実に飲ませていますか		
計画的なワクチネーションを実施していますか		
寒期・暑熱期における防寒防暑対策を心がけ、子牛の消耗を防いでいますか		
子牛を十分観察し、下痢や熱発などの早期発見・早期対応を行っていますか		
異常を発見した時は、獣医師の診療指導を受けていますか		
エ 子牛の出荷成績向上 肥育農家にとっては、子牛の段階で、どれだけ粗飼料を食い込んでいるかが、増体と肉質に影響するため、とても重要になります。 そのためにはCheck!	評価	備考
子牛の発育ステージに合わせた適切な飼養管理を行っていますか （4か月齢まではほ乳・代用乳中心に、4か月齢以降は粗飼料を十分に食い込ませます。特に発育期にはタンパク質などを多く含む良質な粗飼料を給与しましょう。）		

注) 評価欄〔実施：○、一部実施：△、未実施：×、該当なし：－〕

（2）肥育経営

黒毛和種去勢牛では、脂肪交雑は筋肉内の脂肪細胞の数が24ヶ月齢くらいまで増加し、その後は細胞内に脂肪を蓄えることで形成されるため、適切な時期（15～23ヶ月齢）のビタミンAコントロールと十分に飼料を食い込ませることが大切です。

肥育牛の健康管理に十分注意し、経営効率の良い飼養管理を目指しましょう。

そのためにはCheck！

ア 肥育期間中の事故防止	評価	備考
肥育牛の飼料摂取量に気を配るとともに、糞便をよく観察し、下痢が生じた時には早急に対応していますか （飼料摂取量は牛の健康管理のバロメーターです。十分な観察により、食滞への早期対策を心がけましょう。） ※食滞の要因：消化器疾患、発熱、粗飼料の不足や品質低下、暑熱、尿石症等		
イ ビタミンAコントロール	評価	備考
ビタミンAの極端な欠乏は飼料摂取量低下・下痢・尿石症・免疫力低下などの原因となるので、適切なコントロールを行っていますか 導入時：乾草などの給与によるビタミンA補給 24か月齢まで：ビタミンA給与の抑制 24か月齢以降：肥育牛の状態によりビタミンAを適宜補給		
ウ 肥育成績の向上	評価	備考
肥育ステージに合わせた適切な飼料給与を行っていますか 肥育前期：良質な粗飼料とタンパク質の給与 → 筋肉の発達・肥育後期の食滞防止 肥育後期：高TDN飼料を適切に給与 → 肉質の向上 飼料を十分に食い込ませることを心がけ、増体重や肉質の向上を図っていますか （飼料を食い込ませるためには、粗飼料とのバランスが大切です。稲わらを細断して配合飼料と混合するとともに、こまめに飼料の掃き寄せを行うことで選び食いや食い残しを防止し、飼料のロスを防ぐことができます。）		
エ 出荷適期の判断	評価	備考
増体量を目安に出荷適期の判断をし、回転率を向上させていますか （肥育期間の無用な延長は経営効率の悪化を招きます。） ※体重の測定が出来ない場合、胸囲の計測なども目安となります。 また、超音波肉質診断は出荷適期の判断に有効な技術ですので、関心のある方は最寄りの農業振興事務所へ相談してください。		

注）評価欄〔実施：○、一部実施：△、未実施：×、該当なし：－〕

評価が△や×の項目は、○を目指して改善を進めましょう！